

第1回都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会
議事要旨

1. 日時

平成29年11月2日(木) 10:00~11:50

2. 出席者

＜委員＞森本章倫座長、糸久正人委員、大串葉子委員、金森亮委員、中村英夫委員
三好庸隆委員、森川高行委員

3. 議事

- (1) 本検討会の設置について
- (2) 本検討会における検討課題と検討方針について
- (3) 分科会の設置について
 - ①ニュータウン分科会
 - ②基幹的なバス分科会
- (4) その他(今後の進め方について)

4. 議事概要

(1) 検討会の設置について

○事務局より、検討会の設立趣旨について説明を行った。

(2) 本検討会における検討課題と検討方針について

○事務局より、本検討会における検討課題と検討方針について説明を行った。

＜検討の観点＞

- 技術開発の動向に関する議論と並行して、目指すべき都市像、都市交通体系からみた自動運転及び移動サービスがどうあるべきかの議論が必要。
- 自動運転技術の普及は、現在の都市交通、交通体系、社会活動の何を変える可能性があり、何が変わっていくのかということを整理すべきである。
- 自動運転が自然に普及していくことへの対応を見極めること、都市課題の解決等、戦略的に活用が求められる分野へ積極的に取り込んでいくことの両者が必要であり、将来の社会像、都市像を見据えた上で自動運転の戦略的な適応分野を議論する必要がある。
- 公共交通と自家用交通、貨物交通、小型の交通、大型の交通間の機能や役割変化を都市特性に応じてどう適用していくかの議論が必要である。
- 自動運転の普及の状況について、いくつかのパターンを想定した上で議論すべきである。
- 働き方改革等の施策、担い手層の変化など外的要因も踏まえた移動パターンの変化も考慮すべきである。
- 技術的に無人化が可能でも、トラブル対応の人的要件が必要となる等、社会的なニーズを

踏まえてどのように応用していくか議論することが必要ではないか。

○公共交通とプライベート交通の境目が複雑化するため、対象範囲を整理すべきである。

○技術面からの実現難度、実現時期、課題等、技術に関する知識を共有するためにも専門家へのヒアリングを実施することが必要ではないか。

○利用特性が大きく変わる可能性のある駐車場についての議論が必要ではないか。

<今後の自動運転技術の普及に向けた時系列の整理>

○自動運転技術の導入により生じる変化について、一般車と自動運転車が混在する過渡期、自動運転車両が多くを占める普及期に分類して先行整理することが必要である。

○長く続くことが見込まれる過渡期については、技術特性に応じて効果を引き出せるような運用を検討することが必要である。

○日本だけでなく国際的な動向を踏まえた上で、自動運転技術の普及時の姿の整理が必要ではないか。

<ロードマップの整理>

○国土交通省全体での取組や議論を踏まえた上で、目指すべき都市像に向けて、ロードマップを整理する。(事務局)

○社会課題や要請からの対応すべき時期、社会の趨勢による普及時期、技術実用化見込からの時期などからの議論が必要である。

○ロードマップを作成する上で、技術開発に係る部分は今後、専門家へのヒアリングを行うことを検討する。(事務局)

○自動運転も含めた社会の変化による移動の変化、今後の公共交通体系を、都市や土地利用と連動しながら考えていく。

(3) 分科会の設置について

○事務局より、分科会の設立趣旨について説明を行った。

○2つの分科会で、検討範囲や観点、社会的ニーズへの対応必要タイミングが異なるが、検討会と合わせて整合の取れた議論が必要である。

①ニュータウン分科会

○急速な高齢化に即効性のある自動運転の活用と、ニュータウン内の世代交代を促す自動運転の活用と要件が異なる検討が必要である。

②基幹的なバス分科会

○基幹的なバスに自動運転が適用されることにより技術、都市、運行者にとり課題や影響の議論が必要である。

(4) その他(今後の進め方について)

○平成30年3月頃に第2回開催を予定

(事務局)

以上